



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：

担当者の所属・氏名

呼吸器内科・中村 友昭

【研究責任者】

聖路加国際病院 呼吸器内科 中村 友昭

間質性肺炎と診断されオフェブまたはピレスパを
使用されたことがある方を対象とした
治療の継続に関する研究

1.研究の対象

2008年12月から2022年11月に当院でピルフェニドン(ピレスパ)を処方された方。あるいは、ニンテダニブ(オフェブ)を処方された方。

2.研究の目的・方法

間質性肺炎と診断された患者さんには、進行を遅らせる目的でオフェブやピレスパといったお薬が処方されることがあります。これらのお薬は、間質性肺炎と診断された方の中で、以前より治療の対象となる患者さんが増えてきています。ただし、オフェブやピレスパは、下痢や光線過敏症(日焼け)といった副作用があるために、一部の方では治療が継続できないことがあります。治療の対象となる患者さんが増えてきている中で、以前と同じような治療継続が可能な方や、治療継続が難しい方についてはまだわかっていません。今回は、どのような方が治療を継続しやすいのか、あるいは治療継続が難しいのかを調べることによって、今後の患者さんへの説明及び治療方針に役立てることを目的としております。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2025年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

《情報》 病歴、オフェブやピレスパの処方歴、副作用等の発生状況、カルテ番号 等